

巻頭言

—キーワードで読み解く米中・日中関係と世界—

李 春利

はじめに

この度は、『ICCS 現代中国学ジャーナル』第 14 巻 1 号が発刊されましたので、皆様にお届けいたします。本号は投稿論文 3 本のほかに、2020 年度 ICCS シンポジウム講演記録 4 本を掲載されており、比較的に充実した内容になっているのではないかと思います。講演記録と特別寄稿の著者は次のようになっております。

劉学亮 株式会社 BYD ジャパン代表取締役社長・BYD(比亞迪)汽車アジア太平洋地域自動車販売事業部総経理

高 洪 中国政治協商會議委員・中華日本学会会長

章 政 北京大学経済学院教授・愛知大学 ICCS 訪問教授

林美茂 中国人民大学哲学院教授・愛知大学 ICCS 訪問教授

今回のシンポジウムは 2021 年 1 月 23 日にオンライン開催 (Zoom ウェビナー) となり、約 370 人の受講申し込みがありました。シンポジウムのテーマは、「with コロナの世界と中国—日中関係の再起動」となっており、また、北京大学経済学院と一般社団法人 東海日中貿易センターの後援をいただいて開催されました (参考資料を参照)。

シンポジウムの冒頭に私が企画責任者として、「キーワードで読み解く米中・日中関係と世界」と題して趣旨説明を行いました。ここでは、その内容について簡単にご紹介させていただきます。

1. 米中関係

まず 1 番目のキーワードは「米中関係」です。米中関係について私が考えているポイントは、対立の後にはどこまで共通の利益、または共通点が見いだせるのか、あるいは見いだせないのかということです。この点について、ハーバード大学名誉教授のエズラ・ヴォーゲル (Ezra・Vogel、傅高義) 先生も 2019 年 11 月 23 日に愛知大学で行った講演において次のようにお話されていまして紹介させていただきます。

「来年（2020）には大統領選挙があります。誰が選出されるかは分かりませんが、インテリ層だけではなく、多くのアメリカ国民は、アメリカの国際的な責任を意識して 2021 年 1 月には、世界の国々と良好な関係が築ける人、もっと良い政策を行うことができる人物が大統領になるべきだと考えています。……私自身は、次の新しい大統領には中国ともう少し良好な関係を築いてもらいたいと思っています。

中国は、私たちが競争する相手ではありますが、競争相手が必ず敵になる必要はないのです。……そして米中両国の間に何か問題があると、やはり日本の役割はもっと大きくなるでしょう」。

ヴォーゲル先生の本学での講演を記念して、この度「愛知大学国際中国学研究センター特別追悼出版」として、『ハーバード大学名誉教授 エズラ・ヴォーゲル最後の授業 永遠の隣人』（エズラ・F・ヴォーゲル、李春利著、あるむ刊行）と題した本を近いうちに出版する予定です。

2. 日中関係

2 番目のキーワードは「日中関係」です。日中関係について私が重要と思っているのは、双方は新しい共通点とコンセンサスを見いだすことができるのか、あるいはできないのかということです。これからの日中関係において、やはり新しい視点と新しい協力のジャンルを見つけ出す必要があると考えております。この点については、高洪先生と章政先生の講演録には具体的な話がありました。

ここで私は 1 つの事例をご紹介します。これは文化的な共鳴を呼んだ漢詩です。その漢詩は、「山川異域 風月同天」というものであり、日本語に直訳しますと「山川域を異にすれども、風月は天を同じとす」、今風に意識しますと、「山川の地域は異なれど、同じ空の下で心地よい風、美しい月を感じる」という意味です。

これは、2020 年春頃に日本から中国武漢への支援物資の箱に貼られていた素敵な漢詩です。発送元は中国語検定試験 HSK（汉语水平考试）日本事務局でした。この美しい漢詩に中国全土が感動し、日本に対する好感度が一気にアップしたと伝えられています。これは後に、中国で大きな文化的共鳴を呼んだ社会現象にもなり、日本への支援物資の倍返し運動にもつながっていったのです。

今回のシンポジウムで特別講演を行った BYD ジャパン代表取締役の劉学亮社長もその中の 1 人です。BYD は日本のトヨタと同じように、コロナが一番大変だった頃に、中国政府の要請を受けてマスクの製造に乗り出し、中国国内だけではなく、世界の多くの国々に対してもたくさんのマスクを寄贈しました。愛知大学もその受益者のひとつであり、BYD ジャパンから大量のマスクをご寄贈いただきました。この場を借りて、株式会社 BYD ジャパンと劉学亮社長には改めて心より厚く御礼を申し上げます。

この漢詩は、今から 1300 年前に日本人が作ったものです。奈良時代の天宝元年に、遣唐使であった日本僧の栄叡（ようえい）と普照（ふしょう）が中国・揚州大明寺の鑑真和尚のもとを訪れ、日本仏教における戒律を確立するために誰かを派遣してほしいと懇願した

そうです。当時、仏国を目指した長屋王が唐に袈裟 1000 着を贈り、これらの服にはこの漢詩が刺繍されていたと伝えられています。この詩に共感を覚えた鑑真和上は、苦難と死を覚悟して日本に行く決意をしたと言われています。その後、鑑真は 10 年かけて、6 回にわたる日本渡航を決行し、66 歳の年について日本上陸に成功しました。

今、鑑真和上の座像は奈良の唐招提寺にあり、日本最古の肖像彫刻として国宝になっています。鑑真和上にまつわる松尾芭蕉の俳句もあります。高齢の鑑真和上は、5 回目の日本渡航の途中で両眼を失明してしまったのです。失明してまでも日本に渡航した鑑真和上に感動して、芭蕉は次のように詠んでいます。「若葉して御目の雫（しずく）拭はばや」と、非常に美しく感動した俳句で、私が覚えた最初の日本の俳句です。

これらの漢詩や成語が話題を呼ぶ現象は、日中両国に似通った文化的基盤と、互いに分かり合える歴史的、文化的な結び付きがあることを示していることにほかなりません。そういった文化的な共鳴は、日中の中の共通の文化的基盤にもなっていますので、日中関係を考えるうえでぜひ忘れず、これらを活かしていただきたいと願っております。この点については、林美茂先生の特別寄稿には詳しい事例の紹介と興味深い説明があります。

3. 経済連携と FTA の推進

3 番目のキーワードは、経済連携と FTA の推進です。それはすなわち、FTA の推進は日中の新しい共通の利益になるのかということですが、これについては章政先生の講演録に詳しい解説があります。

少し問題を整理しますと、最近の中国経済に関連するハイライトは次の 3 点があるのではないかと思います。

(1) RCEP について。2020 年 11 月 15 日に、日本と中国、韓国などアジア太平洋地域 15 カ国が東アジア地域包括的経済連携協定（RCEP）に署名しました。RCEP 経済圏は世界の人口および GDP の 3 分の 1 近くを占め、世界最大級の FTA 協定となります。これはまた、日中間で初めての自由貿易協定になります。さらに、2020 年の年末に、アメリカでは新しい政権が発足する直前に、中国と EU の間で投資協定の締結で大筋合意に達しました。中国はまた、環太平洋パートナーシップ協定（CPTPP）への参加にも意欲を示していると伝えられています。

(2) 中国の第 14 次 5 カ年計画（2021～25 年）について。同計画は、引き続き脱貧困攻略を推進し、農村振興に邁進する「農業・農村を優先的に発展させ、農村振興を全面的に推進する」という方針を明らかにしています。中でもいわゆる「三農問題」、すなわち農業、農村、農民の問題の解消を特別な重要事項として位置付けて、これから農村振興戦略を全面的に実施していくと強調されています。

同計画はさらに、いわゆる「小康社会」の全面的な建設を新たな出発点とし、都市部と農村部の融合を発展の方向とし、脱貧困攻略から農村振興への全面的なモデル転換を促し、都市部と農村部における格差の是正を本格化していきます。あわせて「生態の振興」、つまり環境問題にも全面的に取り組んでいくと唱えています。中国の環境問題への本格的な取り組みは、米国のパリ協定への復帰という流れにもつながっていきます。

中国は 2019 年に 1 人当たり GDP が初めて 1 万ドルを突破し、世界では 69 位にランクされています。同 7 位の米国は約 6 万 5000 ドル、25 位の日本は約 4 万ドルに比べるとまだ大きな開きがあることは明白です。

中国経済の今後の課題としては、FTA の推進は競争力のある産業部門には有利ですが、日本の TPP 交渉に見られたように、農産物など比較的に国際競争力の弱い部門はどう対応すべきか、ということが挙げられます。

(3) コロナ対策について。中国では新型インフラ整備（中国語：新基建）に重点的に投資していく方針を決めています。新型インフラというのは、未来指向型の新技術に関する設備、とりわけ情報デジタルインフラなどを指しています。具体的には 7 つの分野があり、例えば 5G 基地局、人工知能（AI）、ビッグデータセンター、新エネルギー自動車の充電スタンド、インダストリアル・インターネット、都市間高速鉄道や都市鉄道交通、超高压送電線など 7 つの分野が含まれています。

2020 年から 2025 年までの中央政府の投資総額は 11 兆元(約 176 兆円)であり、地方政府の投資は別枠となっています。通常は中央政府と地方政府の投資比率は 1 : 1 の場合が多く、すなわち実際の投資総額は 2 倍になる可能性が高いので、両者を合計すると、少なくとも 20 兆元（約 320 兆円）以上が向こう 5 年間、この 7 つの分野に投資されていくのではないかと予想されます。

以上のような趣旨説明をもって本号の巻頭言に代えさせていただきます。詳細については、ぜひ本号に収録されている講演録と特別寄稿をご参考いただければ幸いです。

最後に、この場を借りて、主催者を代表して 2020 年度愛知大学 ICCS シンポジウムにおいてご講演いただいた皆様、そして様々な形でご協力、ご支援いただいた皆様および積極的にご参加いただいた視聴者の皆様に心より厚く御礼を申し上げます。

（愛知大学国際中国学研究センター所長）

*本稿は 2020 年度愛知大学国際中国学研究センター（ICCS）シンポジウム「with コロナの世界と中国―日中関係の再起動」（2021 年 1 月 23 日開催）において、筆者が行った「キーワードで読み解く米中、日中関係と世界」と題した趣旨説明をもとに加筆修正したものである。

【参考資料】 2020 年度愛知大学国際中国学研究センター（ICCS）シンポジウム
「with コロナの世界と中国―日中関係の再起動」ポスター

愛知大学国際中国学研究センター(ICCS) シンポジウム



withコロナの世界と中国

—日中関係の再起動—

主催：愛知大学国際中国学研究センター(ICCS)

後援：北京大学経済学院、一般社団法人 東海日中貿易センター

日 時： 2021 年 1 月 23 日 (土) 13:00～16:30 (12:45より入室可)

開催方式： Zoom オンライン

総司会 田中英式・唐燕霞 (愛知大学教授・ICCS運営委員)

第一部 開会式・特別講演

開会の辞 川井伸一 学校法人愛知大学理事長・愛知大学学長

趣旨説明 李春利 愛知大学国際中国学研究センター所長

特別講演 **劉学亮** (株式会社 BYDジャパン代表取締役社長、
BYD(比亞迪)汽車アジア太平洋地域自動車販売事業部総経理)

「新エネルギー自動車におけるBYDのグローバル電動化戦略」

第二部 基調講演 中国経済のフロンティアと日中関係の変容

基調講演I **高洪** (中国政治協商会議委員・中華日本学会会長)

「変わりゆく世界の中の日中関係」

基調講演II **章政** (北京大学経済学院教授・愛知大学ICCS訪問教授)

「中国の第十四次五ヵ年計画とRCEP締結のインパクト」

第三部 パネルディスカッション 「withコロナの世界と日中関係の再起動」

モデレーター：劉柏林・李春利

パネリスト： 劉学亮、高洪、章政、林美茂、佐藤元彦、加治宏基、金湛

閉会の辞 高明潔 (愛知大学教授・ICCS運営委員)



<申込み/問い合わせ>

【申込方法】:インターネットでのお申込みのみ

(電話・メールではお申込みを受付けておりません)

【申込先】: <https://iccs.aichi-u.ac.jp/event/entry-4763.html> ➡

愛知大学国際中国学研究センター(ICCS)事務室

URL: <https://iccs.aichi-u.ac.jp> TEL: 052-564-6120

〒453-8777 愛知県名古屋市中村区平池町4-60-6



【登壇者紹介】

劉 学亮



BYDジャパン株式会社代表取締役社長、
中国BYD(比亞迪)汽車アジア太平洋地域自動車販売事業部総経理。
BYDアジア太平洋地域を統括、シンガポール、オーストラリア、
マレーシア、韓国、インドなどの国で営業拠点と製造拠点を構築。
2010年、日本の大手金型メーカーオギハラの工場を買収。

【BYDとは】BYDはテスラと世界トップを争っている中国の代表的な電気自動車メーカー。
2020年4月、BYDとトヨタは中国深圳で電気自動車の研究開発に関する合併会社を設立、
新会社の社名は「BYD TOYOTA EV TECHNOLOGY CO., LTD (BTET)」。



HP: <http://www.bydauto.com.cn/>

高 洪



中国政治協商会議委員、中華日本学会会長、中国社会科学院
日本研究所教授、前所長。研究分野は日本政治と中日関係。
主著には『日本政府与政治』『日本政党制度論綱』『日本当
代佛教与政治』など多数。

章 政



北京大学経済学院教授、北京大学继续教育学院院长、愛知大学ICCS訪問教授。
東京大学/早稲田大学客員研究員、香港中文大学兼任教授を歴任。
専門分野は経済政策と産業組織、農業経済学。著書・論文多数。

川井伸一 学校法人愛知大学理事長・愛知大学学長

李 春利 愛知大学経済学部教授、ICCS所長

劉 柏林 愛知大学現代中国学部教授・ICCS現代中国と国際関係研究グループ主査

林 美茂 中国人民大学哲学院教授、愛知大学ICCS訪問教授

佐藤元彦 愛知大学経済学部教授、ICCS運営委員

加治宏基 愛知大学現代中国学部准教授、ICCS運営委員

金 湛 愛知大学現代中国学部教授、ICCS運営委員

田中英式 愛知大学経営学部教授・ICCS運営委員

唐 燕霞 愛知大学現代中国学部教授・ICCS運営委員

高 明潔 愛知大学現代中国学部教授・ICCS運営委員

(順不問、敬称略)